

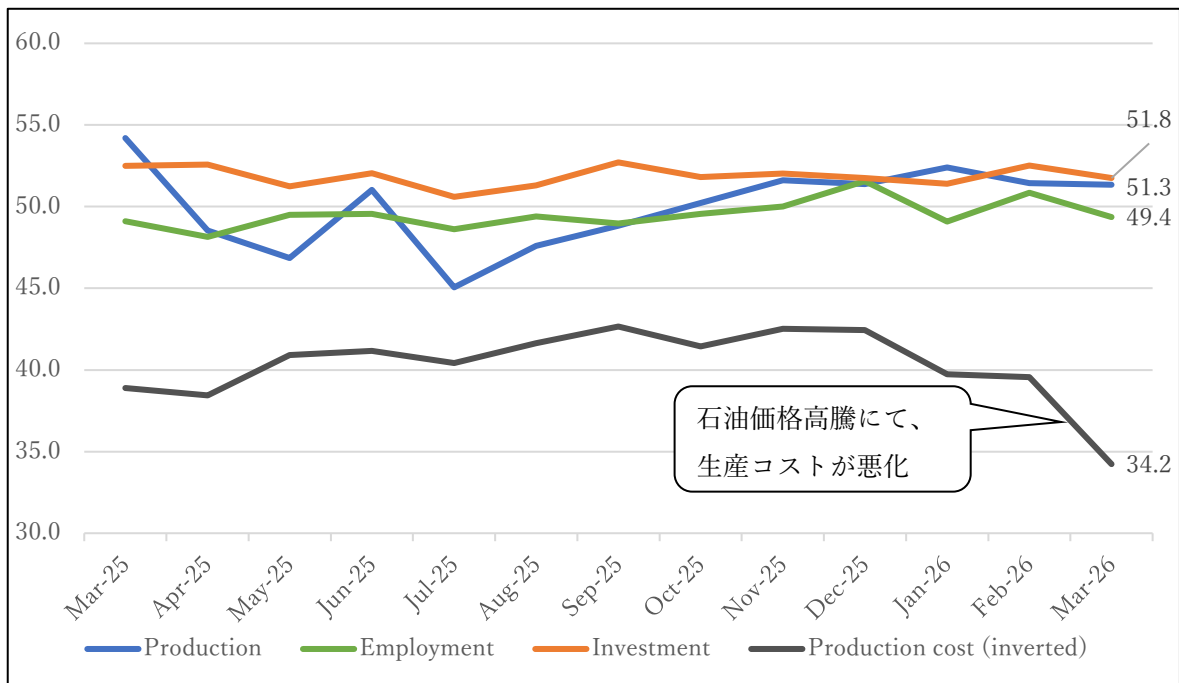
タイ経済指標斜め読み

(2026年4月版)

ビジネスサポート部
加藤義人
kato@mat.co.th

■No. 1 ■【指数データ】景況感指数

タイ中央銀行 (BOT) は、3月のビジネス景況感指数 (BSI) を発表した。下グラフは、BSIの構成要素である「生産」、「雇用」、「投資」、「生産コスト」となる。(50=前月から変化なし)

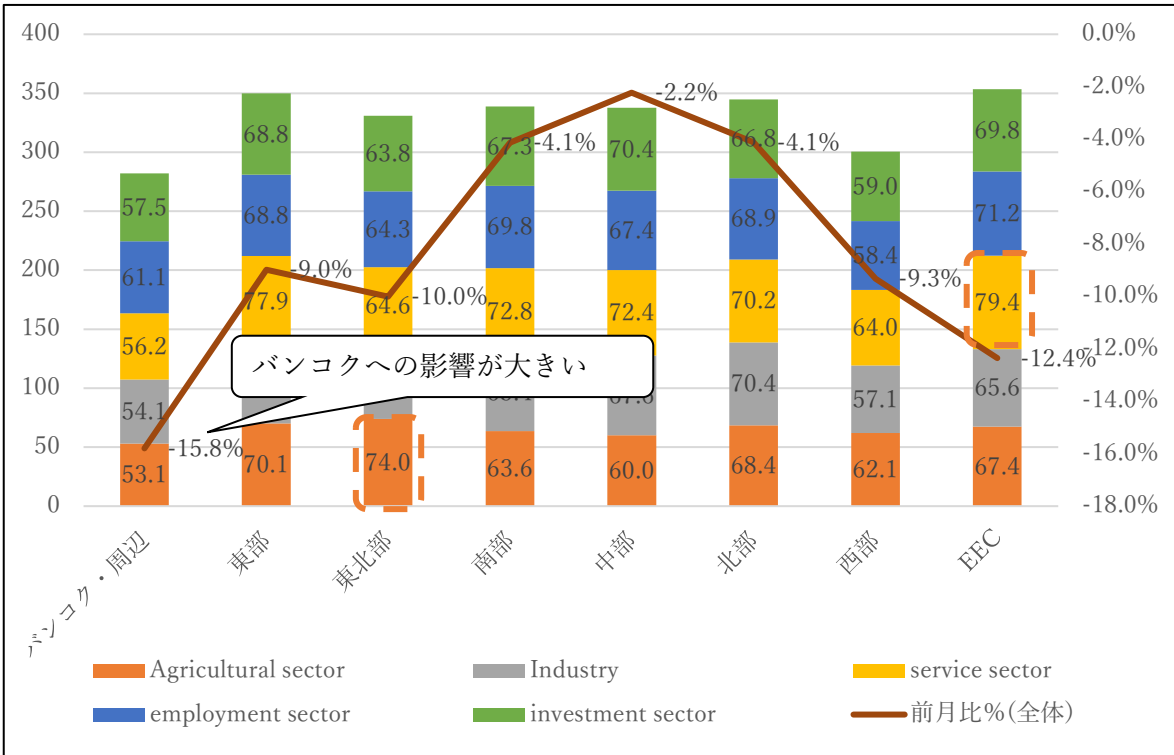


3月の上記項目BSIはすべて前月割れとなった。特に生産コストは前月比で約5ポイント悪化し、最も大きな下落要因となった。要因として、原油価格の高騰で、ポリプロピレン樹脂などの価格が高騰したことや、物資の輸送費用も増加したことが挙げられる。一方、生産、雇用、投資などに関しては微減にとどまり、50の閾値を維持している状況となっている。とは言え、4月時点でこの状況は改善されているわけではなく引き続き悪化傾向にあると思われ、4月のBSIでは更なる悪化に向かうと推測される。

出所 : <https://www.bot.or.th/>

■No. 2 ■【指数データ】 地方経済指数

タイ財務省財政局は、3月の地域経済指数 (RSI) を発表した。5項目は100を最高点として、50以下を悪くなった、50以上を良くなったとしている。



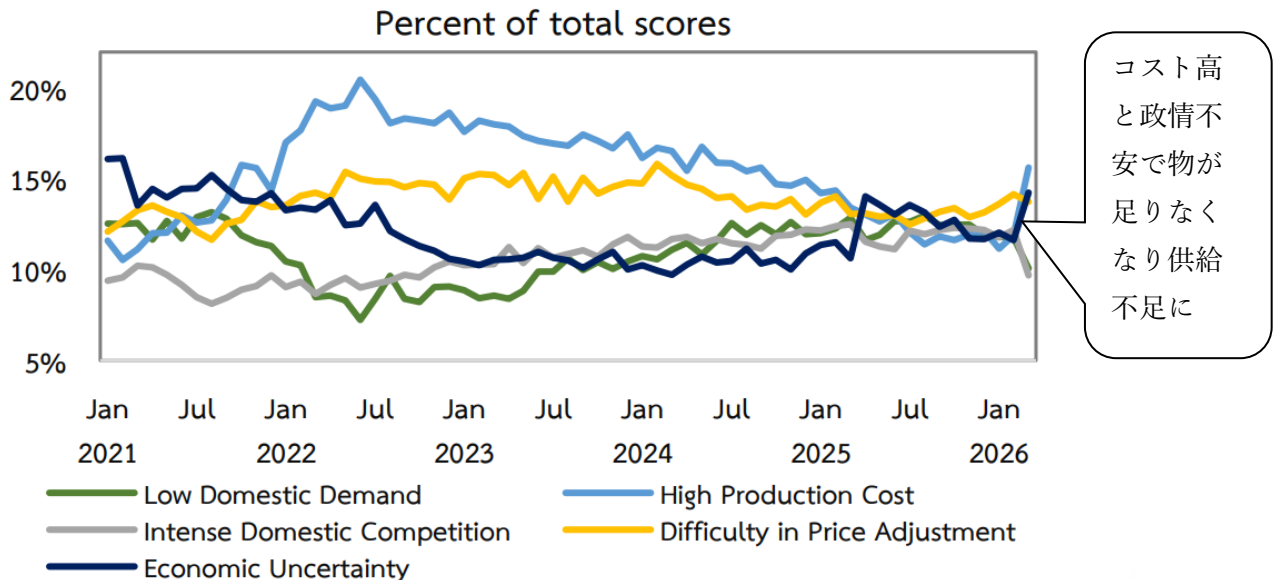
3月のRSIは、EECが全体のトップとなり、東部、北部、中部、南部、東北部、西部、最後にバンコク・周辺となった。EECや東部では、サービスセクターが全体的に高い値を示している。とは言え、前月比ではすべての地域で指数がマイナスとなっており、特に産業セクターでの落ち込みが大きい。要因は言うまでもなく、イラン戦争の余波で原油やプラスチック製品の原料が輸入困難になっていることで、製造コストが上昇し、生産が難しくなっていることが挙げられる。一方、東北部の農業セクターは74ポイントと高く、農業産品は需要が高い結果となった。

出所 : <https://www.fpo.go.th/>

■No. 3 ■ 【調査データ】 ビジネス上の障害アンケート

タイ中央銀行（BOT）は、3月のビジネス上の障害に関するアンケート調査結果を発表した。これは、タイの中大企業649社に対して行ったもので、59.1%の回答率となった。

Top constraints for doing business



3月の調査結果で、最も障害の割合が高かったものは「高生産コスト」となった。次に「経済の不安定さ」、「価格調整の難しさ」となった。一方、「国内消費の減退」と「国内競争の激化」は大きく割合を減らす結果となった。高生産コストの上昇は、既に周知の通りで、イラン戦争の影響に於ける原油高に関わるものであり、経済の不安定さに関しても、いつこの戦争が終結し原油の輸送が再開されるかが未定である状況で、先行きの不安を感じていることが挙げられる。一方、国内消費は、コメや食用油などの需要が増加していると言う。

出所：<https://www.bot.or.th/>

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2026 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。